

## 令和3年度 事業報告

### 1. 公益目的事業の推進

本財団の事業は、広島原爆被爆の記憶を原点として、世界平和都市広島としての責任と義務を果たすべく、国際平和の実現とより密接な国際交流を図り、平和の啓発活動を推進するため、下記の事業を実施した。

#### (1) 第33回 谷本清平和賞

この賞は、本財団の発起人であり日本キリスト教団広島流川教会の牧師であった谷本清氏が、被爆後世界平和のために活躍された功績を継承し、さらに世界が平和であることを願って、毎年平和のために貢献した人(含む団体)を表彰する。

第33回の谷本清平和賞は、核兵器廃絶国際キャンペーン(ICAN)に参加するNGOピースボート共同代表として、また、2017年にノーベル平和賞を受賞したICANの国際運営委員として、核廃絶プロジェクトを中心に、日本から世界へ広げる「平和」のためのさまざまな活動をされている川崎哲氏に授与した。

今日、戦争体験者の平均年齢が高齢化し、次世代への継承が課題となっている。このことから「谷本清平和賞」贈呈式において配布している「ヒロシマ・ピース・センターだより」は、次世代への継承の礎となることを願い、谷本清氏の偉業とこれまでの「谷本清平和賞」受賞者のご紹介など、本財団の歩みを振り返る特別号として編纂し、発行した。

#### (2) 第31回 世界平和弁論大会(中止)

例年、谷本清平和賞贈呈式と併せて開催している外国人留学生による日本語の「世界平和弁論大会」は、広島で学ぶ若者たちが平和への思いを発信できる機会として、本年も大会を開催する予定であった。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症蔓延により、留学生の来日等が困難となり、誠に残念ながら、昨年に続いて本年度も大会を中止した。一日も早く世界中の感染症が終息し、今まで通りの平和で安寧な日常が戻ることを切に願っている。

#### (3) 平和コンサート

平和への感性を醸成し、平和について考える機会を提供する目的として、「被爆ヴァイオリン」と「被爆ピアノ」を奏でる平和コンサートを開催した。被爆で傷だらけになりながらも奇跡的に残り、修復された二つの楽器の音色は「戦争の恐ろしさ」と「平和」の大切さを私たちに教えてくれる「証言」といえる。

”原爆”を歌った合唱曲「原爆を許すまじ」の演奏では、参加者の多くが一緒に口ずさみ、平和を祈念されるなど、平和に関する意識の普及と高揚に寄与した。

#### (4) その他の事業

該当なし